



牡幼だより

第8号

【ホームページ】<http://www.botanyama-k.city-niigata.ed.jp>



～ジャックオーランタン?～



地域の一員に

年長児3人の生活になり、子どもたちの成長に欠かせない「人との関わり」を補足していくために、他園との交流を教育課程に位置付けてきました。加えて、コロナが緩和されたこともあり、校舎続きの牡丹山小学校の子どもたちとも昼休みに交流をするようになりました。各学年の子どもたちが思い思いに幼稚園へ遊びにきてくれます。対等なやり取りを試みたり幼稚園児だからと優先してもらったりして、園児3人だけではできない経験を重ねています。

10月12日に牡丹山小学校で「はしリンピック（マラソン大会）」が開催されました。牡丹山幼稚園の3人の子どもたちも、いつも幼稚園に遊びにきてくれる小学生を応援しようと、寺山公園へ出かけました。

持ち物は、牡丹山幼稚園の横断幕と運動会で使ったキラキラのポンポンです。この横断幕は、新潟シティマラソンで、寂しいけれど「牡丹山幼稚園閉園記念」にと参加して下さった後援会の方と前教頭先生のために制作したのですが、子どもたちが心を込めて絵を描いた横断幕は、この日も小学生を応援するために大活躍でした。

小学校の「はしリンピック」がスタートすると、自分たちのきょうだいはもちろん、顔見知りになった小学生に「ガンバレ！」と大きな声で応援します。小学生も幼稚園の子どもを見つけて、手を振って走り抜けて行きます。ちょうどゴール手前に陣取っていたので、ゴール前の一番苦しいところで園児の声援が届き、最後の力をふり絞ってゴールしていく小学生の後ろ姿が感動的でした。

寺山公園にいる私たちのところに、「（自分は）牡丹山幼稚園の一回生だよ。」と声をかけてくれる地域の方がいらっしゃいました。また、「きてくれてありがとう。」と小学校の先生や放課後児童クラブの方、応援にきていた保護者の方々、ボランティアの皆さんから温かく迎えてもらいました。「来年は3人が走る番だぞ！」と気合いをかけられる場面もありました。皆さんが笑顔で言葉をかけてくださることに、幼稚園の子どもも職員も地域の一員として認めてもらえたように感じうれしいひと時でした。

顔の分かるつながりをもつことで、子どもたちの経験の場を広げることができます。そこで、言葉を交わしたり存在を認められたりすることで、子どもは地域への愛着を感じて育っていくのだらうと思います。子どもたちが将来地域の担い手となっていく姿を想像しながら、居住する地域でしか味わえない出会いを大切にしていきます。



目の前で生長を見てきたもの～プルーンを食す～



今年も、園庭のプルーンが実りました。例年より小ぶりでしたが、夏の猛暑にも耐え、より一層甘みを増したようです。園庭で遊んだ後の子どもたちは、ひと休みにもぎ取って味わってきました。たわわに実ったプルーンをどうやって食べようかと、子どもたちは iPad で調べました。その結果、給食でも提供される「乾燥プルーン」を作ることになりました。

プルーンがどうやって実になっていくのか、生長の様子を間近に見てきました。それを自分たちで調理して食すること。なんと楽しいことでしょう！ 調理の過程では、数を数えたり、重さを量ったり、匂いやプルーンから出る自然な色に目を見張っていました。調理をしながら、自分ですること(主体性)や相手のことも思っていること(協同性)を考える子どもたちでした。



先輩、フロサッカー選手来園！



平成17年度修了生の「熊倉 彩華さん」が幼稚園に遊びに来てくれました。ニッパツ横浜FCシーガルズ所属のプロサッカー選手です。

子どもが彩華さんに「どうしてサッカー選手になったのですか。」と質問すると、彩華さんの答えはズバリ……「サッカーが大好きで！大好きで！仕方がなかったからです。」とのこと。リフティングを教えてもらったり、1対3でサッカーの試合をしたりしました。素敵な笑顔の彩華さんから離れようとする子どもたちでした。



自然科学館へ出掛けました。念願だった恐竜シアターに夢中。



春から育ててきた「シルクスweet(さつまいも)」の収穫。



サツマイモを使って「ゆうなちゃんレシピ」でsweetポテト作り！



東区主催の親子歯みがき教室にて、「6ちゃん白歯」の発見も！



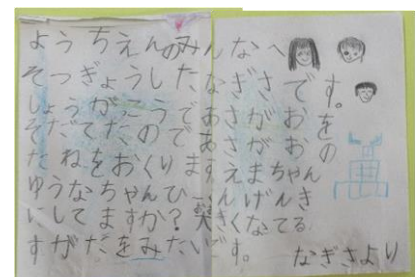
ある日の昼休み、小学生の皆さんとカブツに挑戦！



保育参観と懇談会。うちの人に素敵な歌のプレゼント。



すこやかタイム(食育)で、「いただきます」と「ごちそうさま」のいわれを教えてくださいました。



1年生の先輩「なぎささん」が、育てた朝顔の種を届けてくれました。私たちのことを思ってくれて、ありがとうございます！！